



第一の波

“アメリカ支配の崩壊”



第二の波

“多極型秩序”

・マネー経済は依然広がり続ける



第三の波

“超帝国”

・すべてが民営化される



水・エネルギー不足
市場は無秩序に



第四の波

“超紛争”

・ノマド増加



第五の波

“超民主主義”

トランスヒューマン

- ・過去においてはいかなる危機が起きても人類が減びることはなかった
 - ・でも今や人類は姿を消す自殺行為さえする可能性がある
 - ・もしかしたら、21世紀、22世紀はないかもしれない
 - ・だからこそ、経済危機、軍事的な危機、気候変動など、地球の危機を真剣に管理する必要がある
- ⇒危機を回避するためには、今行動することが大切だ！！

人々が“博愛精神”に目覚め始めれば状況は変わってゆく...

第一の波 “アメリカ支配の崩壊“

- ・アメリカはインフラ整備、水やエネルギーの確保、膨大な借金の返済のために世界から撤退する
- ・保護主義もその一環
- ・結果として内向きになっていくであろう

しかし、とって変われる国はない。 また、とって変われば悲劇が起きる。

第二の波 “多極型秩序”

- ・10～20ヶ国が世界を統治する。 例えばG20
将来的にはインドネシアやトルコ オーストラリアも重要なパートナー アラブの代表も入る
強い政府になるだろうが、「国家はグローバルな市場よりも弱い」だろう
- ・しかし、多極型秩序や国際協調はいずれ失敗するだろう。
なぜなら、国際協調がグローバルな市場原理より強力にはなり得ないから
- ・グローバルな危機の中、自国の国益を守ることに精いっぱいとなり、
結局は成果の上がる協力関係を築くことは難しい
⇒そして、マネー経済は依然広がり続けるだろう。

第3の波 “超帝国”

2040年～

グローバルな統治はすぐに訪れない

- 一国支配の帝国ではなく、“市場そのものが帝国となる”
⇒さまざまなものが民営化される。
- 教育、保険、社会保障
長期的には警察、軍までもが！

すべてが民営化される“超帝国”では、世界は二つのもので支配されるだろう

1. エンターテインメント ……諸問題から人びとの目を逸らすために

2. 保 険 ……リスクから守るために

⇒ インターネットやナノテクが人々を監視する技術となる

- ・偽造や食肉偽装、銀行の不正などを防ぐために監視することは不可欠である。
- ・問題となるのは、監視する対象が「モノ」から「ヒト」へ移ること。
(オーウェルの世界のように、個人を監視することは避けねばならない)

ノマド Nomad が大きな役割を果たす

Nomad: 放浪の民

日本人にとってはノマドを理解しにくいだらう
だが、人間が定住しだしたのは、わずか5000年前だ。

● 人間には放浪と定住の二つの側面がある

- ・人間の最初の自由は「移動の自由」
- ・個人の自由が尊重されれば、我々は再びノマドのような放浪生活に戻れる

以前は固定電話で住所が固定されたが、携帯電話によって、場所はどこでもよくなった。

- **超ノマド** : 世界中どこにでも行ける 1000~5000万人
- **下層ノマド**: 貧しくて生きるために移動する 30億人 [2050年には55億人]
~ 農村から都会へ 国から国へ
- **バーチャルノマド**: テレビやゲームなどで、バーチャルに移動できる。

- ・超帝国は世界規模の市場を作り上げて勝利するが、全人類に対する貧困層の割合は増大していく
- ・弱体化した国家は、貧困撲滅活動に対してきちんとした資金援助ができなくなる
- ・貧困層を削減するために、市場メカニズムだけに頼る試みは失敗に帰する
- ・超帝国のガバナンスの方法は誰も分からない状態に陥る

第四の波 “超紛争”

長くは続かない

・市場は無秩序となり、エネルギーや水資源が極端に不足し、気候変動が激しくなる

⇒やがて戦争が発生する

・さまざまな国の間で紛争が起こり、ありとあらゆる武器が開発される

⇒市場が支配する超帝国の無法状態では、経済面や軍事面での海賊行為が頻発し
コントロールができなくなり大規模な紛争に発展するだろう

しかしこれは避けることもできるだろう

⇒ “超紛争”に陥らずに、第五の波 “超民主主義” が代わりに起こることを願いたい

第5の波：“超民主主義”

2060年ごろ

“超紛争”の後には、世界には別な統治方法が必要だという理解が深まる

● 個々の自由に基づくのではなく“利他主義”に基づいた世界

- ・人々は他人を援助することで幸せになれることに気づく。

母親が子供に対していただく優しさ、病院や医師、ホテルで働く人々人を助けたり、ヒトを喜ばすことで幸せを感じることができる

● “トランス・ヒューマン”が社会の中で重要な役割を果たす

高価なものをもっていることが重要なのではない

真の賢さとは 他人を愛する心です

- ・世界がサービス業へと移行していくとしたら、サービス業界は客である他者を幸せにしたいと思うようになる。
- ・テクノロジーも博愛を拡げる。 アイデアを公開し共有するようになる。

人々が博愛精神に目覚め始めれば状況は変わってゆく

現在の「民主主義」と「超民主主義」との本質的な違いは

1. イデオロギー： 他人と戦ってまで求めるイデオロギーではなく、博愛の観点から団結の精神を構築するものである
2. 利益を追求していた企業が、今後よりNGO的なもの、非営利的なものにかかわっていく。
⇒ 株主という存在はやがて消滅していく
3. G20ではない、グローバルな政府ができる。
超民主主義では互いの政府の間の利益ではなく、人類全体の利益を考える政府ができる
4. 水資源を確保し、武器を規制し、環境を考え、生存に不可欠なものを守るもので、現在ある国家からはかけ離れたものとなる。

マイクロファイナンスについて

プラネット・ファイナンスを設立して、低所得国で支援をしている(アタリ氏)

- ・可能性があれば無担保でも融資する (利子は平均13%だが焦げ付きはほとんどない)
- ・返済能力に見合った融資を得られれば人々の収入は上がる ⇒人々も社会も発展が見込める
- ・国境なき医師団も超国家の活動である。
マイクロファイナンスもそうだ。
- ・世界銀行もそうなるべきだ。
ほんとうの意味での超国家的な金融機関ができた時に、世界通貨が可能となる。
(ユーロができたように可能である。)

- **マイクロファイナンスは博愛団結の精神という思想と実践の場**
…グローバルな政府をつくるためのその一部である。

博愛精神について

人がこうした境地に達するのはなかなか難しい

仕事は何でもそうだが、現在でも人が幸せにならないと事業はうまく行かない
レストランはお客が満足しないと倒産してしまう。

● 合理的なはく愛である。

- ・誰でも他人に病気になって欲しいとは思わない。
→だから病気の人を治療したいという気持ちを持っている
- ・人間が本質的に持っている心である。
- ・ビル・ゲイツもマザー・テレサも同じように、違う分野で人の幸せに貢献している。

博愛精神を広めるには

● 教育で博愛を広めることができる。

- ・若者の間で団結心を持てれば良い例になる
- ・サッカーで自分や他の選手が良いプレーをすれば、みんなの利益に繋がる
- ・他人は敵だと考えることが生き残りの基本と考えている人間に
一緒にグループに入れて利他の心を理解させることが重要だ。

チームスピリットこそはく愛の基本である。

● 合理的な利他主義を教えることが次への一步として重要なのだ。

【付録】 事務局 中山 感想(1/2)

※ ジャック・アタリ氏はアルジェ生まれのフランス人。パリ理工学院、政治学院卒。
ミッテラン政権の大統領補佐官、欧州開発復興銀行総裁。オーケストラの指揮もする。
…というバックグラウンドが彼の構想力のもとになっている。

● 第一、第二の波は想定範囲内

● 第三の波“超帝国”で、すべてが民営化(警察、軍まで)というのは意外な感もあります。
…ただし、狭義の公に依存するのではなく、民間セクターが分担していくと考えれば十分あり得る
(経済原則で支配するのか、ボランタリーか、倫理はどうなるのか?という思いはあるものの)

⇒日本でそうなるとしたら、「税金がなくなる」「霞ヶ関がなくなる」ということを意味します。
ただ、これだけ官僚機構が発達した日本ですべてが民営化は難しいかもしれません。
(高福祉・高負担のフランスや北欧なら、セクターを替えることで可能と思うものの…)

- ・エンターテインメント …ローマ帝国を思い起こせば、これも帝国の常套手段
- ・バーチャルノマド: 1988年に2020年ごろの世界のモビリティを検討した時の私の提案は
「人々はバーチャルに世界中を移動できるようになり、遠距離交通は激減する」
でした ⇒ ゆえにそうなると思います。
- ・超ノマド/下層ノマド: ヒトの流動性について新たな考察が要りますね

● 第四の波“超紛争”は極力避けたいですね。

⇒ このためには、2030年ぐらいに“2060年グローバルビジョン”を世界が共有すべきです。
(私がこれに参加することは無理でしょうが、ぜひ若い方たちが作って欲しいと思います)
⇒ また、日本がいち早く“利他”社会をつくることができれば、“超紛争”を回避できるかもしれません

● 第五の波“超民主主義”

・印象として、利他の状態に日本がいち早く(2030年ごろ)なるのではないのでしょうか。

理由: ① すでに利他の心で動きだした人たちがかなりいる。

また、これから10年程度でそうなると信じている人たちがいる。

アマタ:熊野英介さん YAMATO:川合アユムさん などなど

(“2030ビジョン”もそう考えています)

② 単一民族、多神教、阿吽の精神ゆえに、集合的無意識を共有しやすい

③ 少子高齢化、食とエネルギー供給、地震などの外的要因で相互扶助が必然となる

④ もともと、“もったいない”、“おかげさまで”、“ほどほどに”のDNAがある

・“トランスヒューマン”

マズロー五段階欲求説の「自己実現」のさらに上位概念として「自己超越:トランスパーソナル」があり、究極的には人はこれを目指す。・・・と考えてますので、そういう流れになります。

・“マイクロファイナンス” この仕組みを考える必要があります。

・資本主義の概念が変わるかもしれない

投機:	リターン >> 1.0 (例えば 半年で2倍)	⇒ 悪
投資:	リターン > 1.0 (例えば 5年で1.5倍)	⇒ ??
出資:	リターン ÷ 1.0	⇒ 善
寄付:	リターン = 0	⇒ 最善